

令和2年度 第3回 射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会 (議事録)

日時 令和3年2月19日(金)

午後2時20分～2時55分

会場 射水市役所 2階 201・202会議室

【議題】

(1) 令和2年度認知症初期集中支援チームの状況について 資料1(事務局説明)

【質疑応答】

- ・ 認知症初期やMCIの状態を受診されることは少なく、来院される時には中等度から重度の状態、家族は大変困っていることが多い。薬物療法もひとつの方法だが、家族に対するサポートが大変重要。医師だけでなく、ケアマネジャーや包括支援センター、地域など周囲の支援があると良い。
- ・ 支援チームでの対応は、本人や家族の状況をアセスメントし、何度も支援方針を話し合う。チームで情報共有しながら対応をしていくことが大切である。市では認知機能検診事業が開始されたが、MCIの状態でも早期に発見、対応をするということと認知症になった方への支援の両輪(予防と治療)を進めていく必要がある。
- ・ 認知症に関する相談の件数は年々増加しているが、取組の影響などはあるのか。  
→ (事務局) 「心配なことがあれば地域包括支援センターへの相談を」と地域で周知。また今年度はコロナ禍の影響で、地域の集まりの機会が少なくなっており、心配に思ったことを包括支援センターへ相談するケースもあったかと思われる。

(2) 認知症になっても希望を持って過ごせる射水市へ(案)

令和3年度事業計画(案)

資料2(事務局説明)

【質疑応答】

- ・ 認知症であることを家族が受け入れられず、「認知症であることを隠したい」「外へ連れていかない」状況になり、それが認知症の進行につながってしまうことがある。認知症に対しての偏見、周囲の見方が変わるよう認知症を受け入れるような環境づくり、働きかけが必要である。
- ・ 「認知症」は、以前は「痴呆症」であったが蔑称につながるということで呼び方が変わった。しかし、最近は「認知症」のことを「認知」と区切って呼ぶようなことも増えている。差別的な言葉として使われることもあるため、病名として「認知症」と呼ぶことを医療介護関係者も心がけてほしい。
- ・ 認知症患者は2025年には700万人を超え、5人に1人となる推計も出されている。国民病として市民全体が自分事と捉え、取り組んでいくべきことである。コロナウィルス感染症においても差別的なことが問題となったが、そういったことがないようにしていく必要がある。

令和2年度 第3回射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会 次第

日 時 令和3年2月19日(金)

午後2時30分～3時

会 場 射水市役所2階201・202会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 令和2年度認知症初期集中支援チームの状況 (資料1)

(2) 認知症になっても希望をもって過ごせる射水市へ(案)

令和3年度事業計画(案) (資料2)

3 閉 会

## 令和2年度 射水市認知症初期集中支援チームの状況

### 1 認知症に関する住民相談

	H30年度		R元年度		R2年度 (R3.1末)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
新湊西包括	66	251	51	384	43	483
新湊東包括	35	273	38	212	47	303
小杉・下包括	85	312	66	233	78	297
小杉南包括	59	264	47	248	40	356
大門・大島包括	70	320	103	305	77	286
計	315	1,420	305	1,382	285	1,725



住民相談の内容により、困難な事例は包括支援センターと市地域福祉課で支援方針を検討

### 2 困難事例等の検討

	H30年度		R元年度		R2年度 (R3.1末)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
対応件数	45	78	44	95	53	128



医療や介護につながらない者や中断している者、認知症の行動心理症状が顕著で対応に苦慮している者等は認知症初期集中支援チームでの対応を検討

### 3 認知症初期集中支援チームへの相談件数

	H30年度	R元年度	R2年度 (R3.1末)
相談数	11	12	11
チーム対象	5	7	4
チーム対象外	6	5	7

※チーム対象外

チームの支援を検討したが、ケアマネジャー等の支援で受診や介護サービスにつながった人

### 4 令和2年度 認知症初期集中支援チーム対応状況 (R3.1末)

対応件数	R1からの継続ケース	R2新規相談ケース
7	3	4

・年齢、性別の内訳

	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計
男性				1		1
女性		4	1		1	6
計	0	4	1	1	1	7

・相談者（延数）

内訳	件数
本人	1
家族・親族	4
地域等周囲の人	2
介護事業所等本人の支援者	3
計	10

・相談内容（延数）

内訳	件数
認知症疾患の臨床診断を受けていない	3
継続的な医療サービスを受けていない	1
適切な介護サービスを受けていない又は中断	5
BPSDが顕著なため対応に苦慮している	4
計	13

・チーム員支援状況（延数）

内訳		回数	1人平均
市・包括	訪問・面談	45	6.4
	親族との相談	25	3.6
サポート医	チーム員会議	5	0.7
	サポート医へ対応相談	7	1.0
	サポート医の訪問・往診	0	0.0
対応	支援終了	4	
	継続中	3	

# 認知症になっても 希望を持って 過ごせる 射水市へ (案)

認知症は誰もがなる可能性があります。自分が認知症になった時、こんなまちで暮らしたいという皆さんの声を集めました。

認知症になっても・・・

外へ出かけたい！

誰かと話したい！

自分のできることを続けたい！

生活を楽しまたい！



安心して出かけることができる  
出かける場所がある

できないことがあった時に  
ちょっとした生活の支援がある

心配なことを  
相談できる

## 困ったら助け合える環境

やさしい声かけ支援  
みまもりあい事業  
わかりやすい表示  
お金を持たずに買い物できる仕組み（わかりやすいキャッシュレス支払等）  
高齢者でも外出できる公共交通機関の仕組み

## 歩いていける場所に 皆が集う場所

地域支え合いネットワーク事業、100歳体操 集いの場  
身近な場所に認知症カフェ  
なじみの関係の継続  
若い人や子供と交流  
認知症の人が役割や仕事を持てるような場

## ちょっとした支援

地域のみまもり活動  
ケアネット活動  
認知症サポーター  
ささえ隊メイト  
話し相手  
ゴミ出し支援など  
生活を支援するロボット機器

## 外出サポート

一緒に散歩できる仲間  
趣味活動継続の支援  
認知症サポーター  
ささえ隊メイトの力  
訪問販売車や送迎車  
ひと休みできるベンチの設置

## 相談できるところ

もの忘れ・認知症相談会  
地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）  
ケアマネジャー  
介護保険サービス事業所  
かかりつけ医  
認知症サポート医  
相談専用ダイヤルやサイト

銀行

スーパー

図書館

カフェ

公民館

社会福祉協議会

認知症サポーター

医療機関

介護保険サービス事業所

地域包括支援センター

## 行政

- ・ 認知症の人や家族の視点に立ち、関係機関と連絡調整を行いながら、認知症に関する施策を推進します。
- ・ 認知症の理解を深めるため、広く普及啓発を行います。

## 地域（事業所・市民）

- ・ 認知症について自分ごととして理解を深め、困っている人がいる時にはやさしい声かけを行いましょう。
- ・ 認知症の人や家族が参加しやすい場づくりを行いましょう。

## 地域包括支援センター ケアマネジャー

- ・ 認知症に関する相談に応じます。
- ・ ひとりひとりの生活に合わせた支援を本人や家族と共に考えます。

## 本人・家族

- ・ 認知症になってもできることを実施し、周囲とつながりを持ちながら生活しましょう。
- ・ 困った時は、いつでも周囲に相談しましょう。

## 「困ったら助け合える環境」をつくる

## みんなの理解・やさしい声かけの見える化 (オレンジちゃんマークを広めよう)



### 「認知症の人にやさしいお店」登録制度の導入

市内の事業所の方が認知症に関する理解を深め、認知症の人へやさしい声かけや対応ができるよう「認知症の人にやさしいお店」登録制度を導入する。申し込みのあった事業所の方には、認知症サポーター養成講座を受講してもらい、みまもりあい事業の登録を実施。「認知症の人にやさしいお店」ステッカーを配布し、分かりやすい場所に設置してもらう。

「認知症の人にやさしいお店」として市ホームページで公表したり、広報いみずで紹介したりする。

### 認知症サポーターの見える化

認知症の人や家族が困った時に周囲の人にSOSを出せるよう、地域の認知症サポーターを見える化する。

令和3年度から認知症キャラバンメイトからのオレンジリングの無償配布が終了するため、それに代わり「オレンジちゃん缶バッジ」を作成、配布する。また、認知症サポーターステップアップ講座修了者「ささえ隊メイト」にも「オレンジちゃん缶バッジ」を配布する。缶バッジはカバンや衣服などできるだけ見えるところにつけてもらい、認知症の人や家族にやさしいまちづくりにつなげる。

## 「歩いていける場所に皆が集う場所」を増やす

## 認知症になっても出かけられる場を増やそう 支えてくれる人とつながろう

### 地域の集いの場に認知症の人や家族が参加できる働きかけ

地域支え合いネットワーク事業で開催している集いの場で、認知症地域支援推進員とささえ隊メイトが「認知症ミニ講座」を開催する。ささえ隊メイトを地域の人に知ってもらい、認知症の人や家族も集いの場に参加できるよう理解を深める。

### 認知症の人や家族が参加できるサロンの開催

認知症の人や家族と一緒にやりたいことを話し合える場（おしゃべりサロン）を実施する。サロンにはささえ隊メイトも参加してもらい、認知症の人や家族とささえ隊メイトをつなげるマッチングの場とする。

### やりたいことがあった時にお手伝いできるようマッチングの仕組みをつくる

- ①ささえ隊メイトの個人登録票（お手伝いできることを把握）を作成
- ②サロンに参加された方やケアマネジャー等からの情報により「手伝ってほしい」ことを把握し、ささえ隊メイトにつなぐ。（令和3年度はつなぐ事例を作ることを目標にする。）

ちょっと  
お手伝い

認知症サポーター  
ささえ隊メイト

できること  
を登録

マッチング  
(包括)



手伝って  
ほしい

認知症の人  
家族

困りごとを  
発信